

TLS/SSLの暗号利用に関する 現状と課題について

NTT情報流通プラットフォーム研究所
情報セキュリティプロジェクト
神田 雅透

Internet Week 2008にて

どのように変わったか？
(あるいは変わらなかったか？)

SSL/TLSは暗号化技術？

- 「縁の下の力持ち」ゆえ、どんな暗号技術を使っているかさえ認識されていない

共通鍵暗号	ブロック暗号	RC
	ストリーム暗号	RC
公開鍵暗号		RC
デジタル署名		RC
ハッシュ関数		SH

128 bit S

個人情報の保護

(1) 通信データの暗号化
SSLという事実上世界標準の暗号化技術を利用しています。

インターネットのセキュリティは、インターネットのセキュリティを確保するための重要な要素です。インターネットのセキュリティを確保するためには、インターネットのセキュリティを確保するための重要な要素です。

インターネットのセキュリティは、インターネットのセキュリティを確保するための重要な要素です。インターネットのセキュリティを確保するためには、インターネットのセキュリティを確保するための重要な要素です。

実際にどうなっているのか検証してみました

- 調査対象：
政府・公共系サイト
- 調査期間：2008年
- 調査内容：
 - サーバ証明書の状況
 - 暗号選択設定の状況
 - ブラウザでの実際の状況

中間調査結果

政府・公共系：1

サーバ受け入れ可能な主な暗号アルゴリズム候補

	政府・公共系サーバ	金融系サーバ	
CAMELLIA256-SHA	0.0%	0.0%	CRYPTRECで推奨されている設定
AES256-SHA	58.5%	67.4%	
CAMELLIA128-SHA	0.0%	0.0%	
AES128-SHA	60.5%	68.8%	
DES-CBC3-SHA	91.8%	94.9%	管轄訴訟リスクを有する暗号
RC4-SHA	92.5%	89.9%	
IDEA-CBC-SHA	17.7%	11.6%	鍵長56ビットの暗号サーバの正当性検査を要求しない
RC4-MD5	98.0%	100.0%	
DES-CBC-SHA	83.0%	68.8%	鍵長40ビットの暗号
サーバ証明書検証なし	4.1%	13.8%	
輸出規制対応暗号	78.2%	79.7%	
SSL2.0利用	63.3%	36.2%	

SSL/TLSは暗号化技術？

「暗号化はSSLで」の一言で片づけられていないか
 ～どんな暗号を使っているか認識されていないのに「適切な設定」がなされているか～

info.islntt.co.jp

個人情報の保護

(1) 通信データの暗号化

SSLという事実上世界標準の暗号化技術を利用しています。

「秘匿性」の確保

（ ）は、オンライン取引に求められる高いセキュリティを確保しています。
 128bitSSLによる世界最高水準の暗号化技術の導入によって、個人金融資産に関わるデリケートな情報を、お客さま以外の第三者に盗み見されたり、データを改ざんされたりすることを防止します。

FAQでの説明

インターネットバンキングは、128ビットSSL(Secure Sockets Layer) 暗号化通信方式を採用

米国ベリサイン社による最新の暗号化技術を採用して、情報の盗聴・情報の書換えを防止しております。
 ※本方式で暗号化されたお客様の情報は、2の128乗通りの符号を解読しなければ見ることができないため、現在、最もセキュリティ強度が高い暗号化技術といわれています。

128 bit SSL (Secure Sockets Layer)暗号化技術の採用

（ ）では、インターネット通信時に128 bit SSL (Secure Sockets Layer)という強力な暗号化技術を採用し、お客さまの重要な情報が盗まれたり、故意に書き換えられたりされないように保護しています。

（ ）では128ビットRC4や168ビットTriple-DESなどの非常に強力なものを含め、SSL3で規定されているすべての暗号化に対応していますので、それらに対応しているブラウザをお持ちなら、通信内容を強力に保護することができます。

しかし、実際には

SSL/TLSで利用可能な暗号

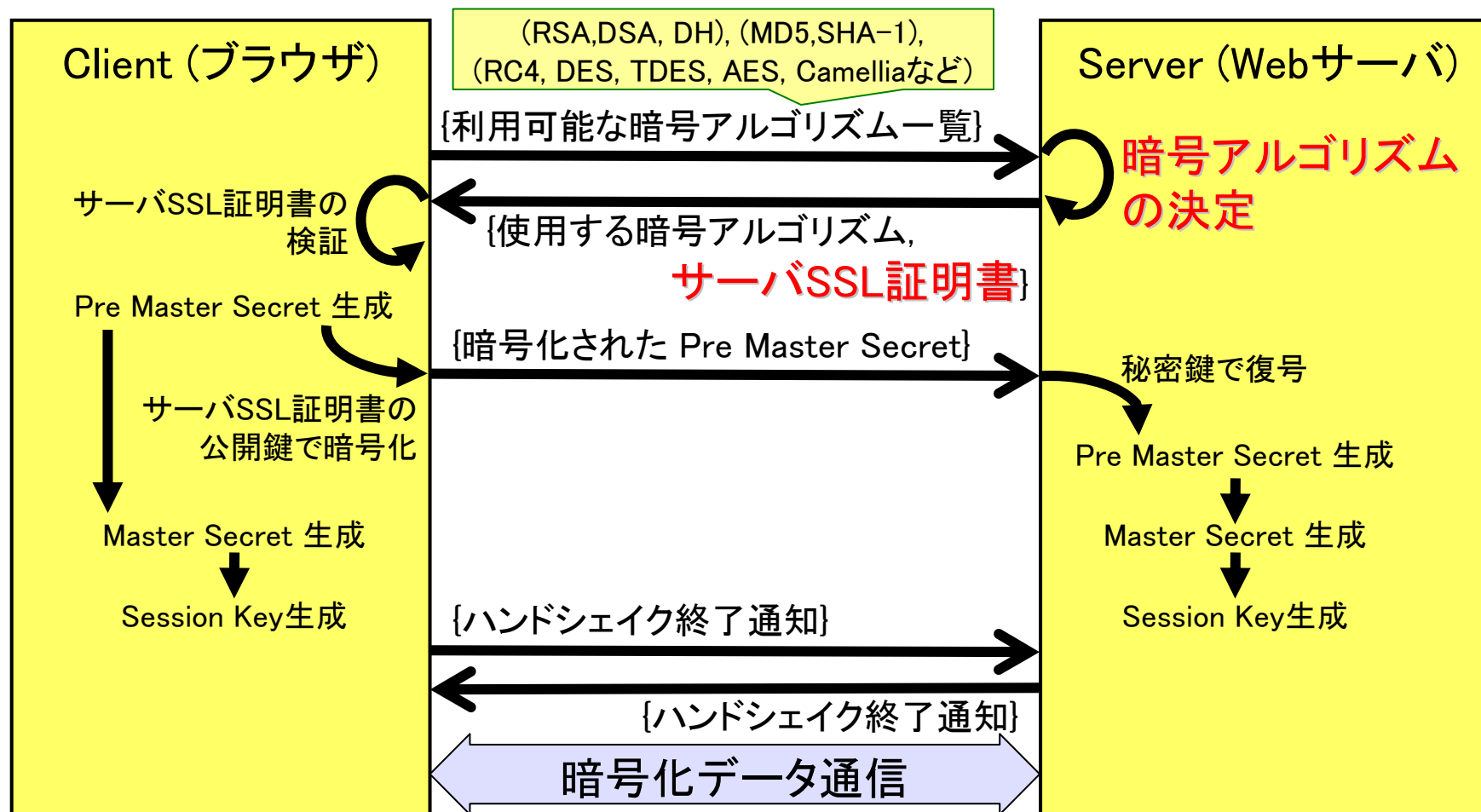
共通鍵暗号	ブロック暗号	RC2(40), DES (40,56), Triple DES, IDEA, AES, Camellia, SEED
	ストリーム暗号	RC4(40, 128)
公開鍵暗号		RSA, ECDH, DH
デジタル署名		RSA, DSS(DSA), ECDSA
ハッシュ関数		MD5, SHA-1, SHA-256, SHA-384, SHA-512

これらのうちどれを使うかは
 サーバとブラウザが事前に
 ネゴシエーションして決定

設定によって実際の暗号化に
 使われる暗号が異なる

SSL/TLSの概要

■ ハンドシェイクで使用する暗号アルゴリズムを決定



OpenSSLで利用可能な暗号アルゴリズム

		サーバ認証なし	輸出規制対応	SSL2.0対応
CAMELLIA256-SHA	RC4-SHA	ADH-CAMELLIA256-SHA	EXP-DES-CBC-SHA	DES-CBC3-MD5
DHE-RSA-CAMELLIA256-SHA	IDEA-CBC-SHA	ADH-CAMELLIA128-SHA	EXP-EDH-RSA-DES-CBC-SHA	IDEA-CBC-MD5
DHE-DSS-CAMELLIA256-SHA	RC4-MD5	ADH-AES256-SHA	EXP-EDH-DSS-DES-CBC-SHA	RC4-MD5
AES256-SHA	DES-CBC-SHA	ADH-AES128-SHA	EXP-RC4-MD5	RC2-CBC-MD5
DHE-RSA-AES256-SHA	EDH-RSA-DES-CBC-SHA	ADH-DES-CBC3-SHA	EXP-RC2-CBC-SHA	DES-CBC-MD5
DHE-DSS-AES256-SHA	EDH-DSS-DES-CBC-SHA	ADH-RC4-MD5	EXP-ADH-DES-CBC-SHA	EXP-RC4-MD5
CAMELLIA128-SHA		ADH-DES-CBC-SHA	EXP-ADH-RC4-MD5	EXP-RC2-CBC-MD5
DHE-RSA-CAMELLIA128-SHA				
DHE-DSS-CAMELLIA128SHA				
AES128-SHA				
DHE-RSA-AES128-SHA				
DHE-DSS-AES128-SHA				
DES-CBC3-SHA				
EDH-RSA-DES-CBC3-SHA				
EDH-DSS-DES-CBC3-SHA				

SSLで利用する暗号アルゴリズムとして
これらの中のどれかが一つを
サーバが選択する

ブラウザが利用する暗号のデフォルト優先順位

	IE8		IE7			IE6		FX3	FX2	Safari3.2	
	Vista1	XP3	Vista2	Vista1	XP3	XP3	XP2	XP2	XP2	Vista2	XP3
ECDHE_RSA_WITH_RC4_128_SHA								13	10		
ECDHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA	8		8	8				2	2	8	
ECDHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA	7		7	7				14	11	7	
ECDHE_ECDSA_WITH_RC4_128_SHA								11	8		
ECDHE_ECDSA_WITH_AES_256_CBC_SHA	6		6	6				1	1	6	
ECDHE_ECDSA_WITH_AES_128_CBC_SHA	5		5	5				12	9	5	
ECDH_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA								7	5		
ECDH_ECDSA_WITH_AES_256_CBC_SHA								8	6		
RSA_WITH_RC4_128_SHA	3	2	3	3	2	2	2	25	19	3	2
RSA_WITH_RC4_128_MD5	12	1	12	12	1	1	1	24	18	12	1
RSA_WITH_CAMELLIA_256_CBC_SHA								9			
RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA	2		2	2				10	7	2	
RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA	1		1	1				26	20	1	
RSA_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA	4	3	4	4	3	3	3	33	27	4	3
DHE_RSA_WITH_CAMELLIA_256_CBC_SHA								3			
DHE_RSA_WITH_CAMELLIA_128_CBC_SHA								15			
DHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA								5	3		
DHE_DSS_WITH_CAMELLIA_256_CBC_SHA								4			
DHE_DSS_WITH_CAMELLIA_128_CBC_SHA								16			
DHE_DSS_WITH_AES_256_CBC_SHA	10		10	10				6	4	10	
DHE_DSS_WITH_AES_128_CBC_SHA	9		9	9				18	13	9	
DHE_DSS_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA	11	4	11	11	4	7	7	30	24	11	7
SSL2_RC4_128_WITH_MD5						4	4				4
SSL2_DES_192_EDE3_CBC_WITH_MD5						5	5				5
SSL2_RC2_CBC_128_CBC_WITH_MD5						6	6				6

新年早々のホットな話題 = MD5証明書偽造 =

“MD5 Considered Harmful Today—Creating a rogue CA certificate”

@CCC 2008 (Chaos Communication Congress, 2008.12.30)

「SSL証明書の偽造」に研究者らが成功、計算には200台のPS3を使用

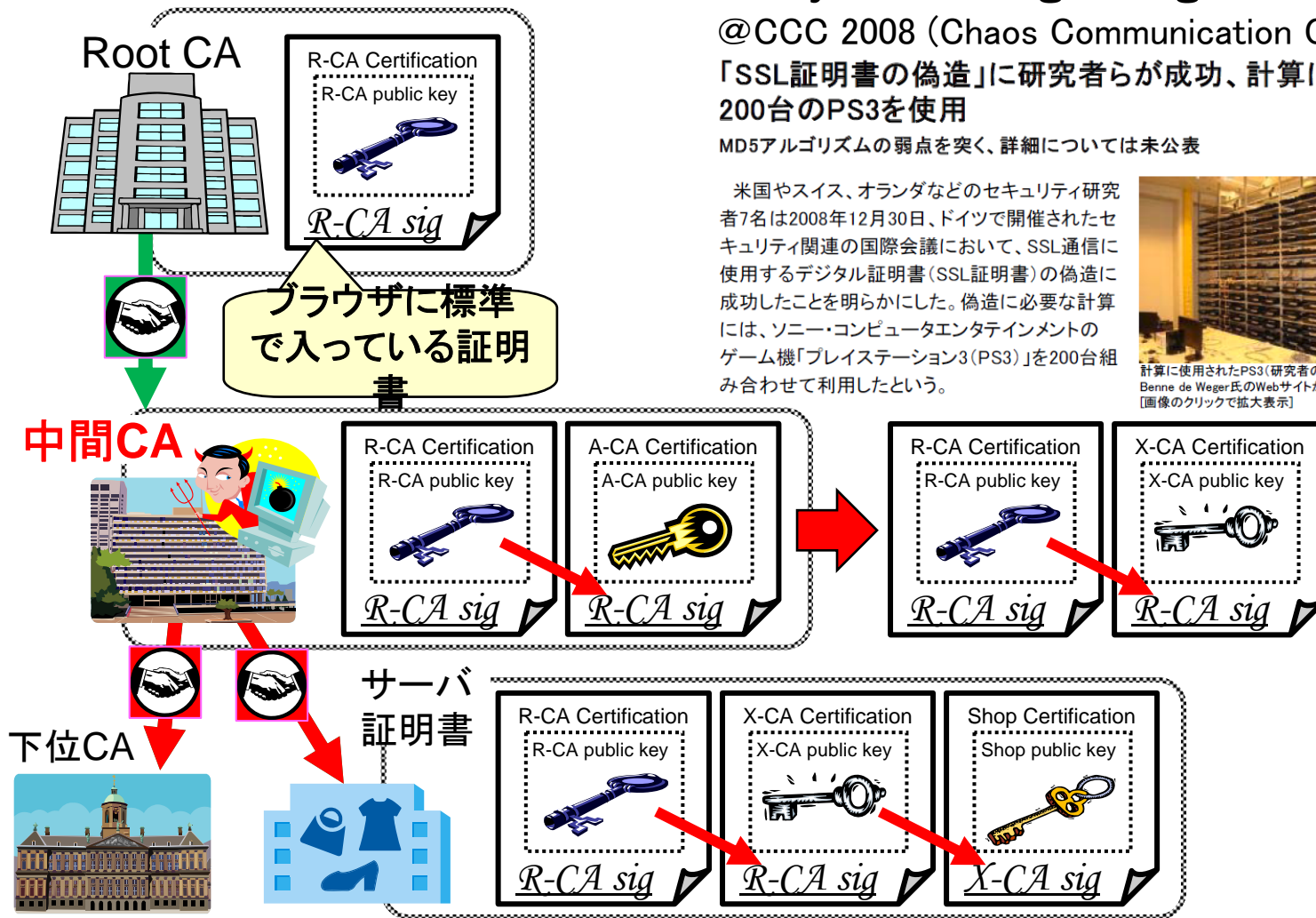
MD5アルゴリズムの弱点を突く、詳細については未公表

米国やスイス、オランダなどのセキュリティ研究者7名は2008年12月30日、ドイツで開催されたセキュリティ関連の国際会議において、SSL通信に使用するデジタル証明書(SSL証明書)の偽造に成功したことを明らかにした。偽造に必要な計算には、ソニー・コンピュータエンタテインメントのゲーム機「プレイステーション3(PS3)」を200台組み合わせて利用したという。



計算に使用されたPS3(研究者の一人であるBenne de Weger氏のWebサイトから引用)
[画像のクリックで拡大表示]

出典: 日経パソコンより



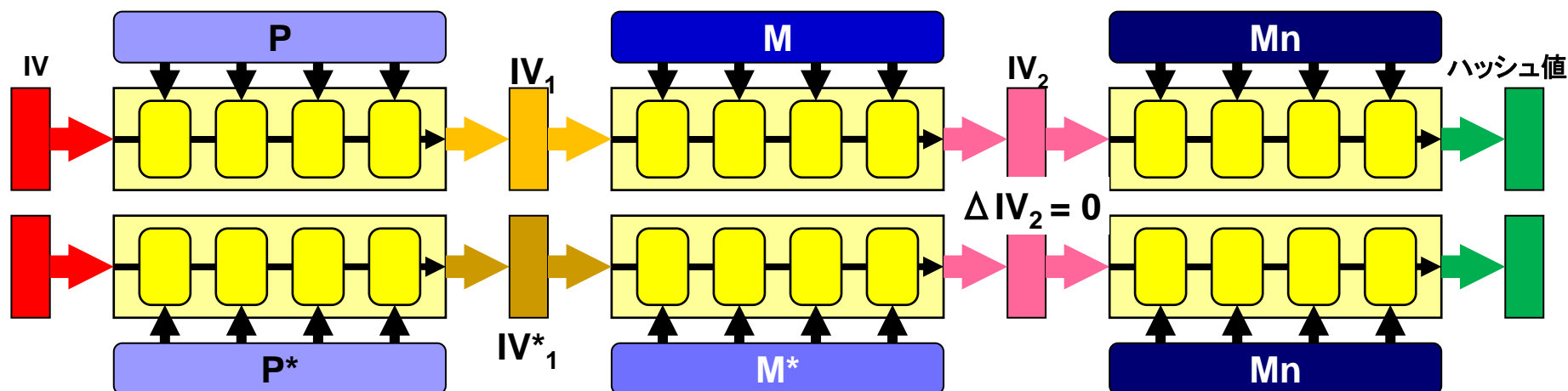
MD5 (Merkle-Damgard構造) の衝突

- 衝突攻撃: 2004年Wangらにより発見

$MD5(M) = MD5(M^*)$ となる (M, M^*) を見つける

- 選択プレフィックス衝突探索: 2007年Stevensらが発見

任意の (P, P^*) に対し $MD5(P|M) = MD5(P^*|M^*)$ となる (M, M^*) を求める

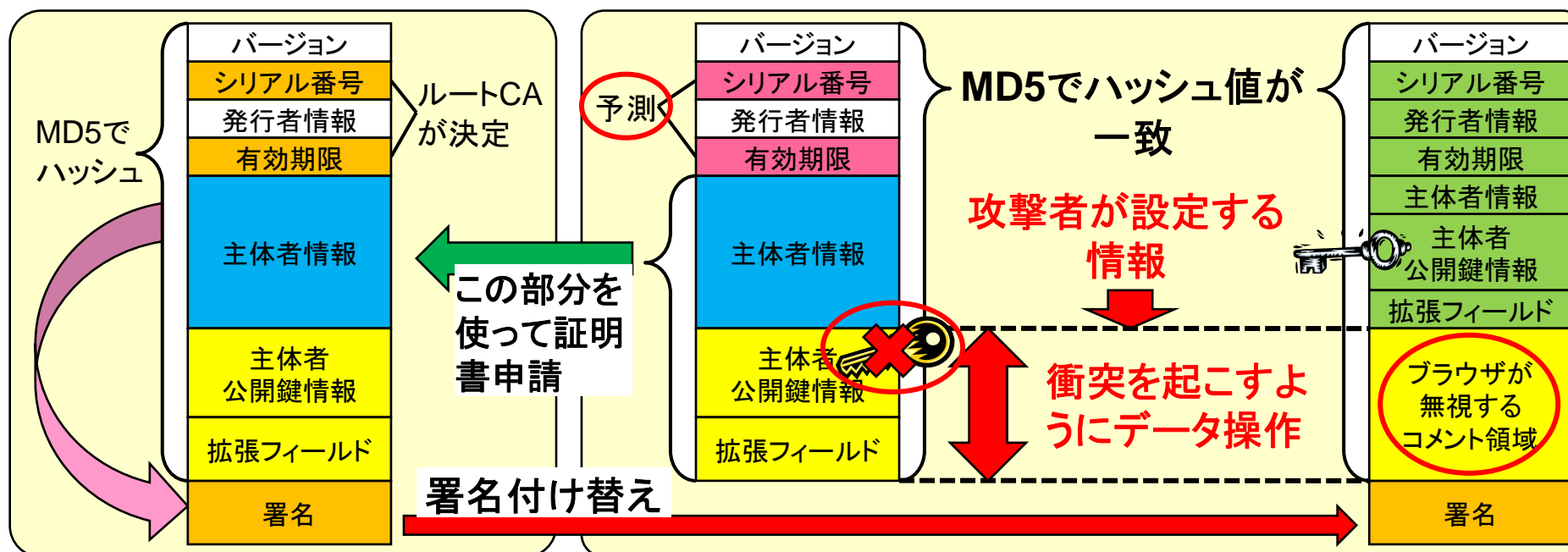


- 2008年: P にRoot CAをだますためのダミー情報、 P^* に公開鍵を含む偽造情報を入れて選択プレフィックス衝突探索手法を実行し中間CA EE証明書を偽造。PS3 200台で約1日

MD5を使った偽造SSL証明書

■ 何が問題だったのか？

- MD5の耐衝突性が脆弱
- ルートCAが決める「シリアル番号」「有効期限」が予測可
- ブラウザが無視するコメント領域が存在



実際にどうなっているのか検証

■ 調査対象:

政府・公共系サイト及び金融系サイトの各トップページからたどることができるSSLサーバ

政府・公共系:約145サーバ、金融系:約135サーバ

■ 調査期間:2008年10～11月／2009年5～6月

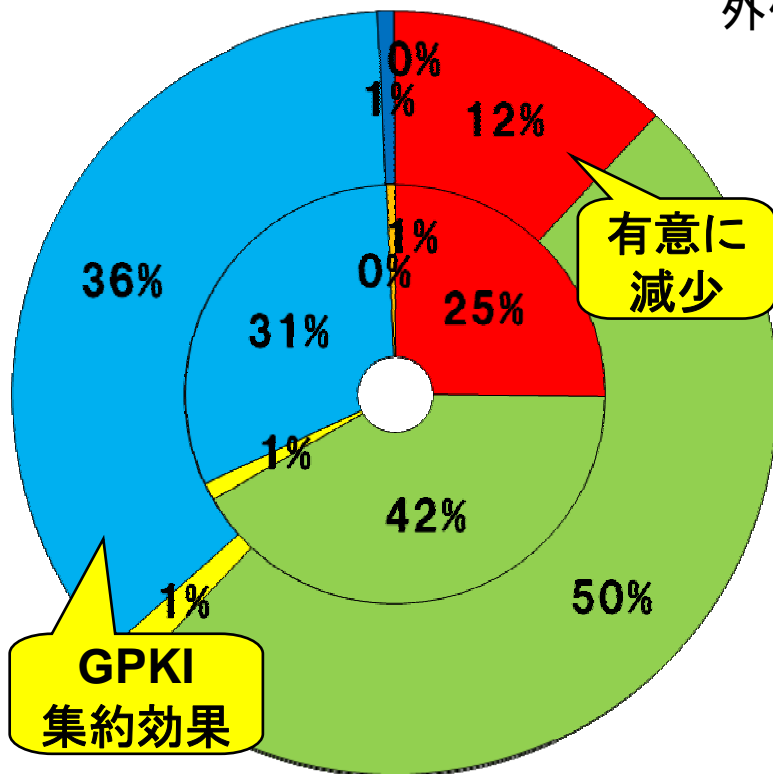
■ 調査内容:

- サーバ証明書 の状況 (有効期限、アルゴリズム、鍵長等)
- 暗号選択設定の状況 (接続可能なアルゴリズム)
- ブラウザでの実際の接続状況 (IE6, IE7, Firefox3)

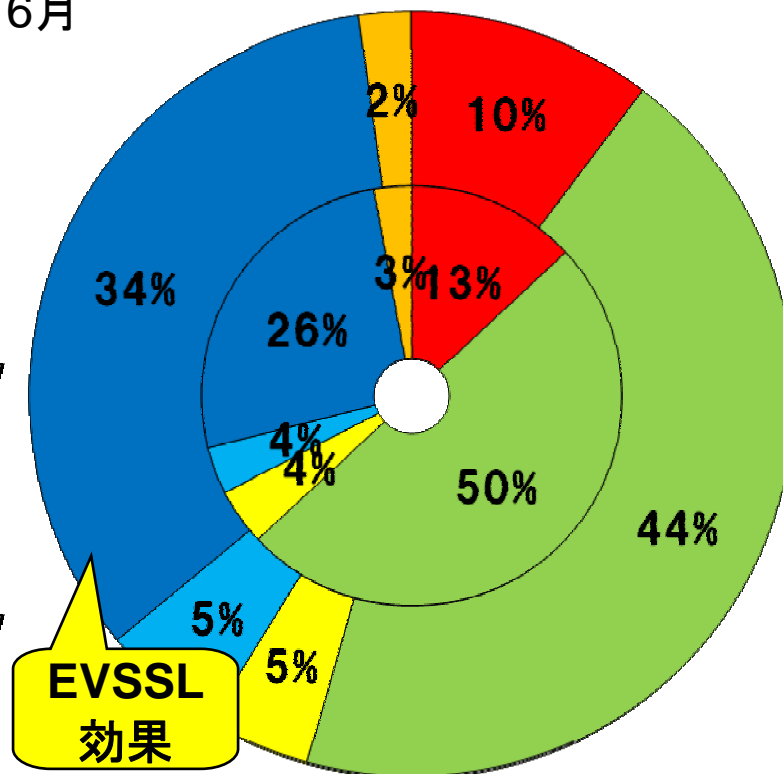
サーバ証明書の状況（アルゴリズムと有効期限）

政府・公共系サーバ

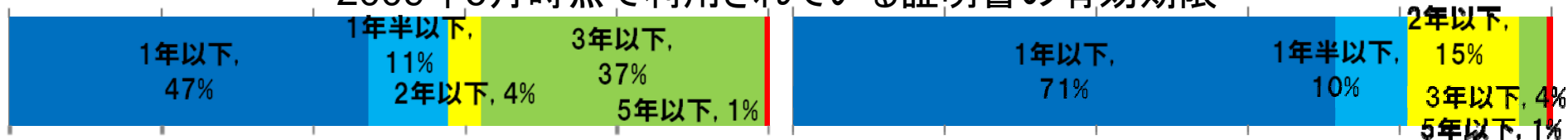
内側:2008年11月
外側:2009年 6月



金融系サーバ



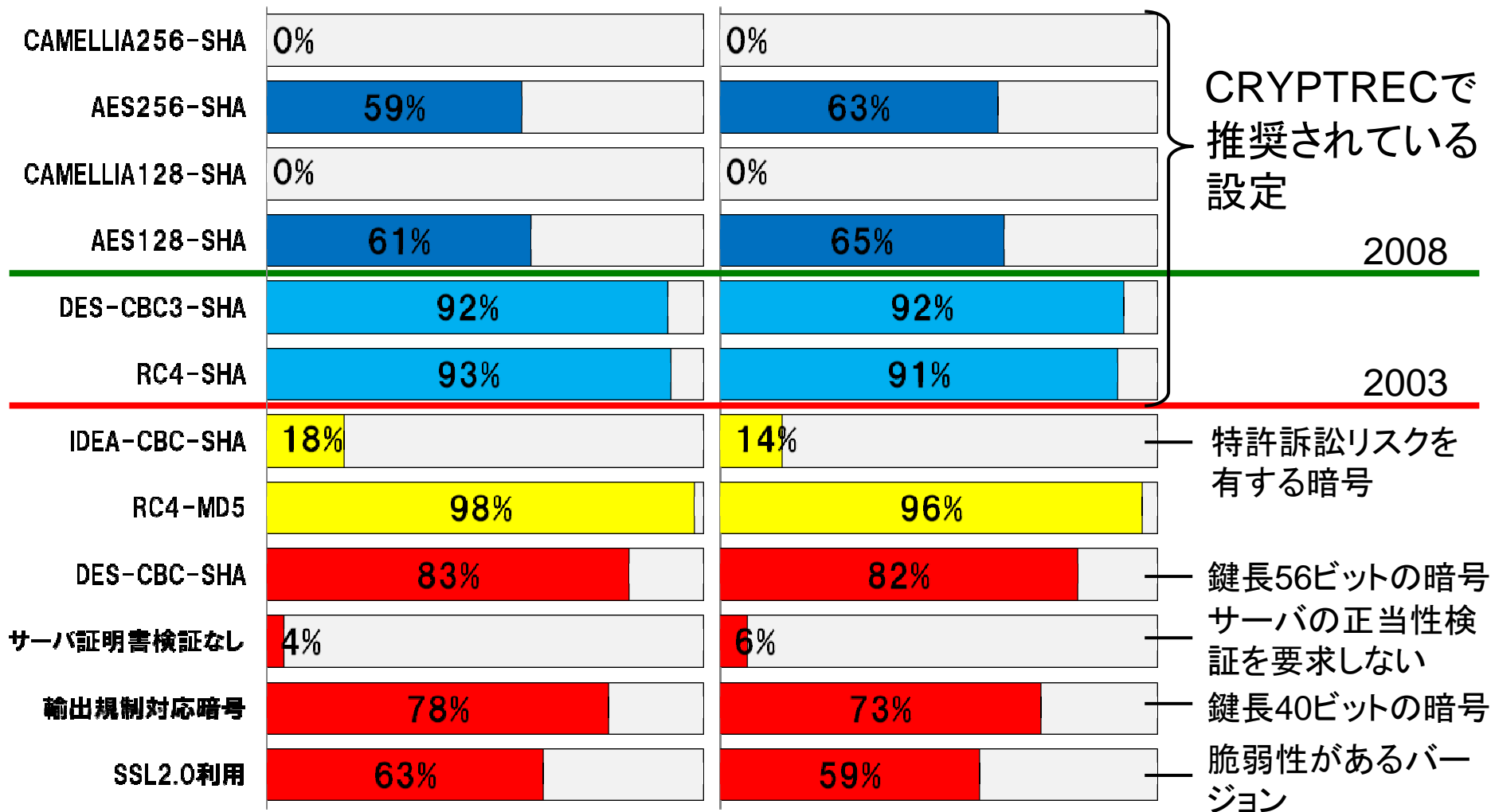
2009年6月時点で利用されている証明書の有効期限



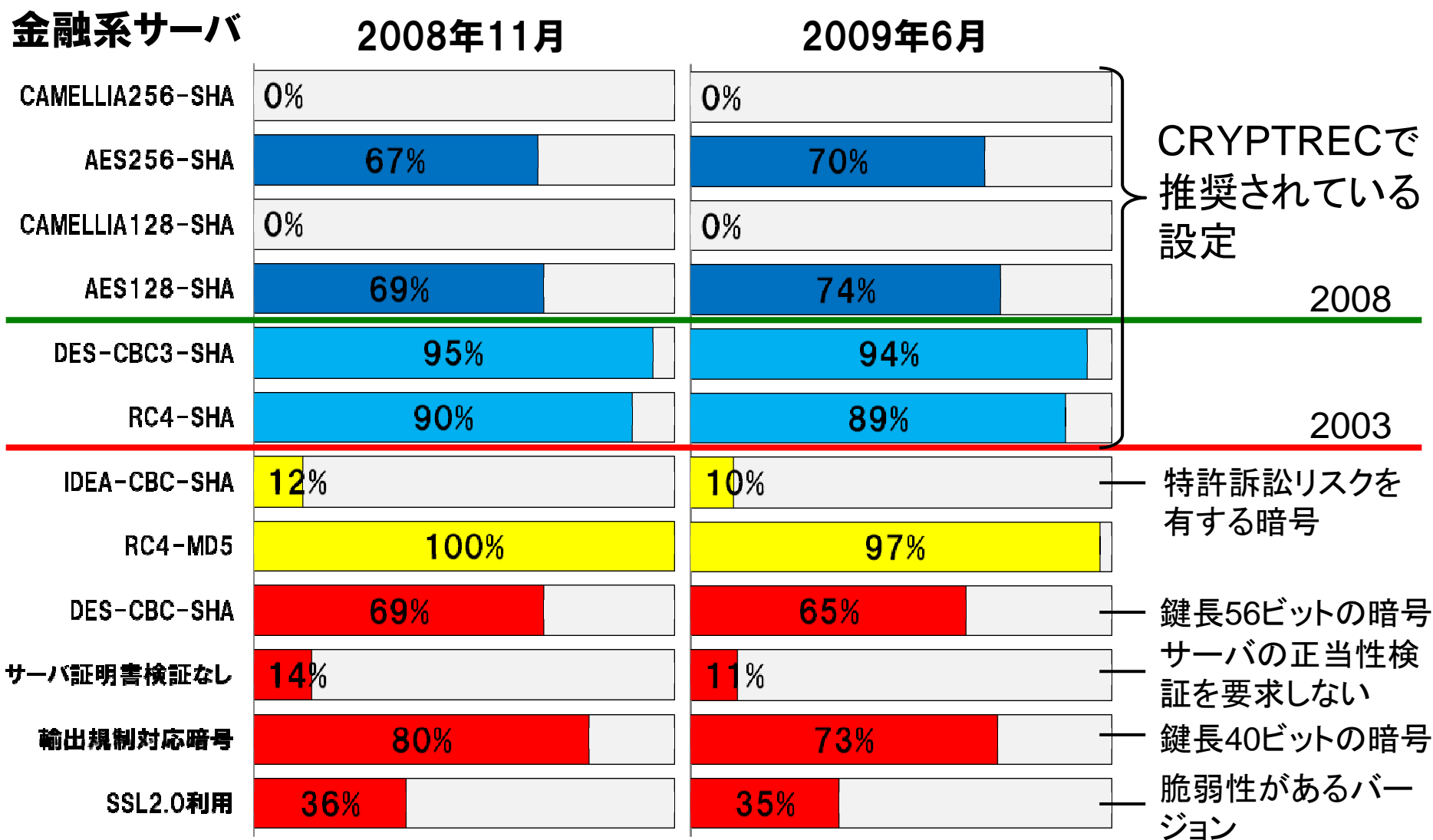
サーバでの暗号設定 ～受入可能な主な暗号～

政府・公共系サーバ 2008年11月

2009年6月



サーバでの暗号設定 ～受入可能な主な暗号～

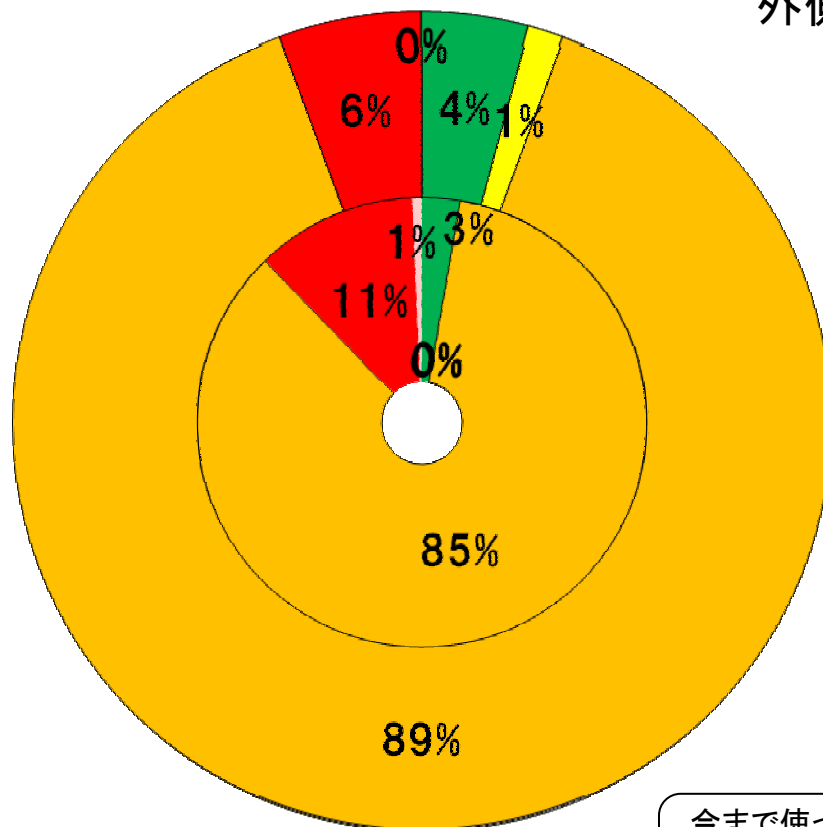


Internet Explorer 7 (Win XP) での接続

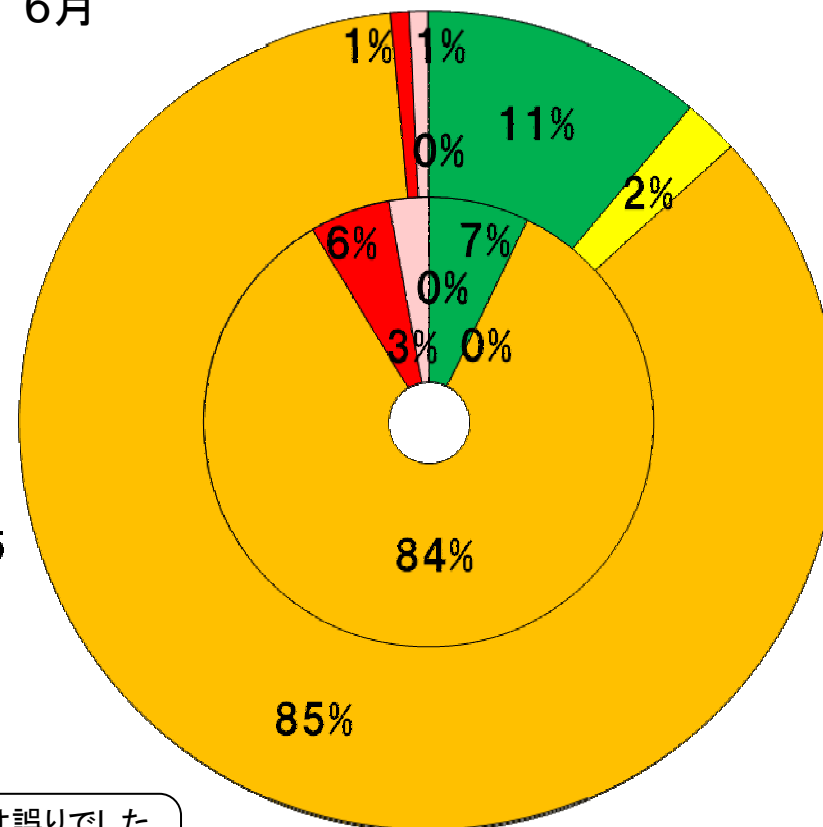
政府・公共系サーバ

内側:2008年11月
外側:2009年 6月

金融系サーバ



- AES256-SHA1
- AES128-SHA1
- DES3-SHA1
- RC4-SHA1
- RC4-MD5
- 不明
- 接続不可



今まで使っていたデータは誤りでした
m(..)m

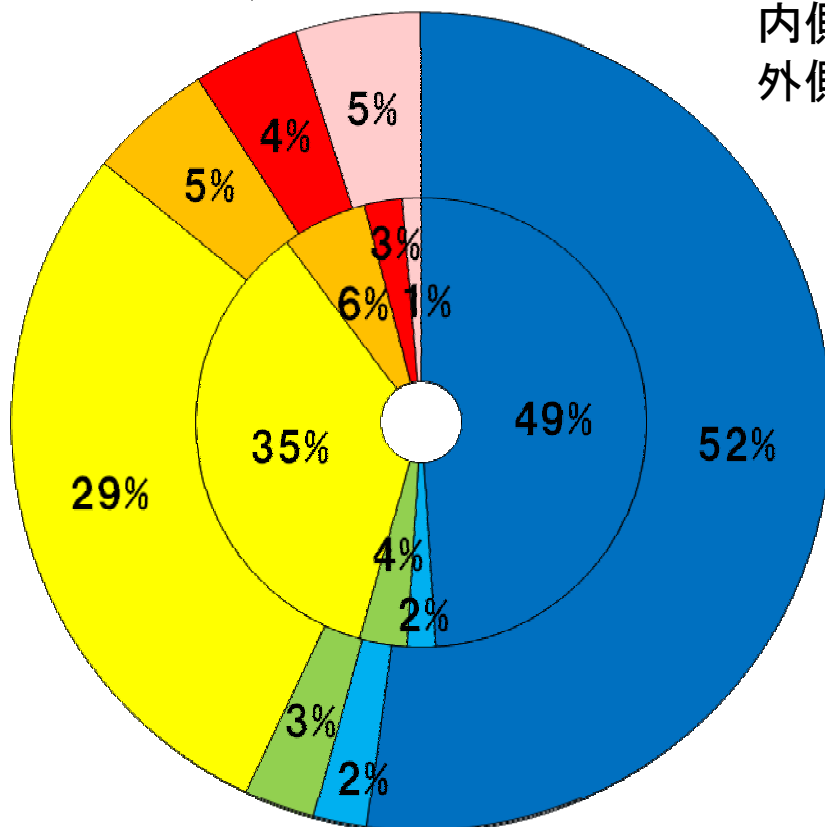
RC4はSHA1ではなくMD5でした。XP SP3でも同様

Firefox 3 (Win XP) での接続

政府・公共系サーバ

AES256-SHA1

63%



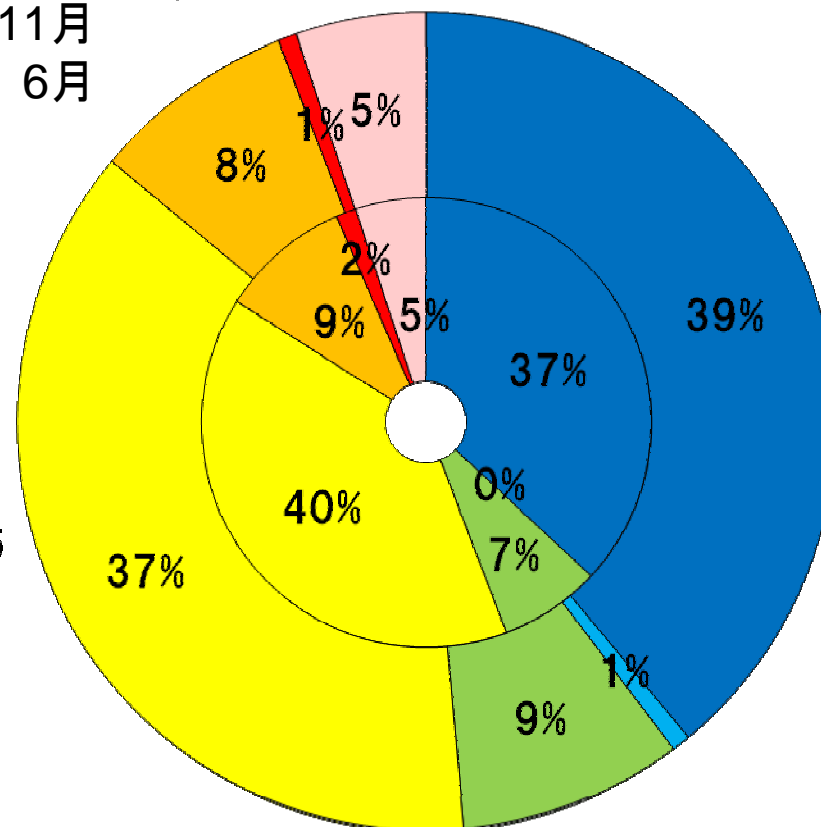
内側: 2008年11月
外側: 2009年6月

- AES256-SHA1
- AES128-SHA1
- DES3-SHA1
- RC4-SHA1
- RC4-MD5
- 不明
- 接続不可

金融系サーバ

AES256-SHA1

70%



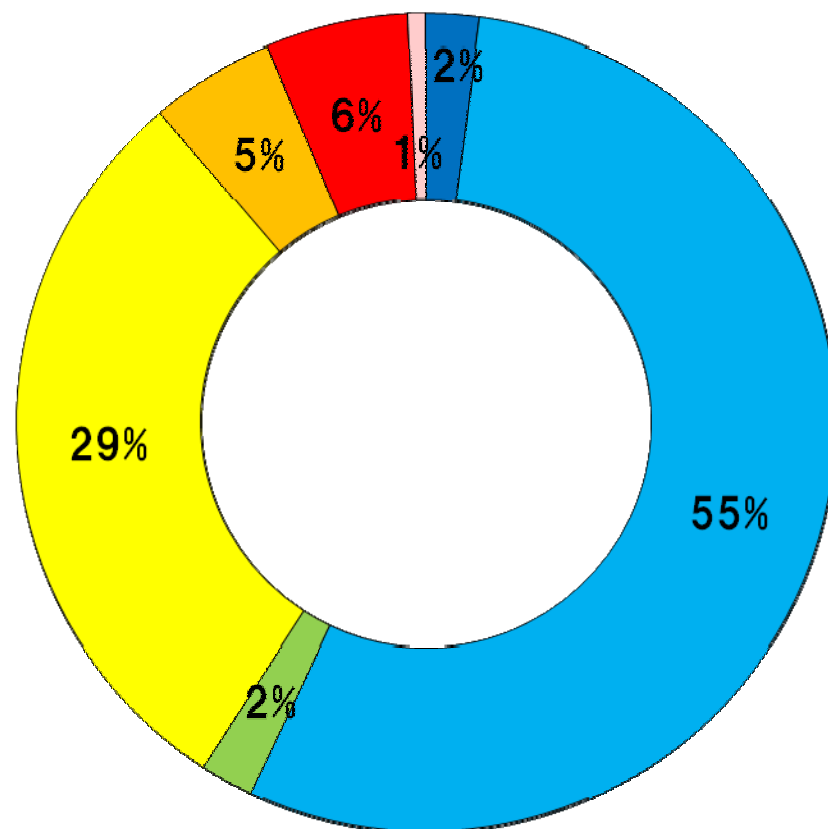
AESの暗号設定状況と実際の接続での逆転現象

Internet Explorer 7 (Win Vista) での接続

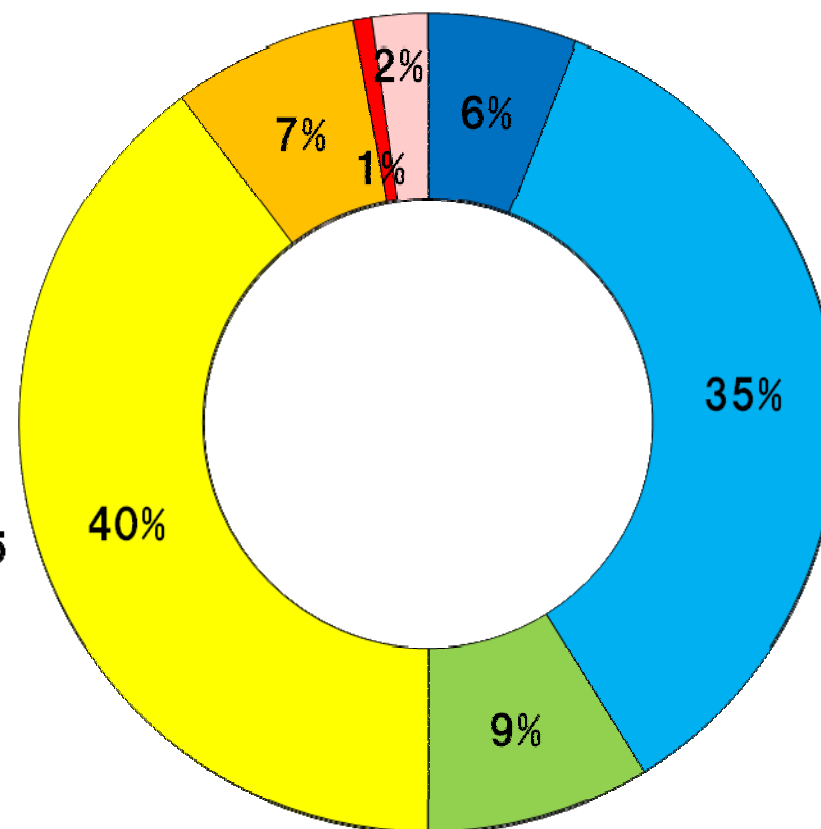
政府・公共系サーバ

外側:2009年 6月

金融系サーバ



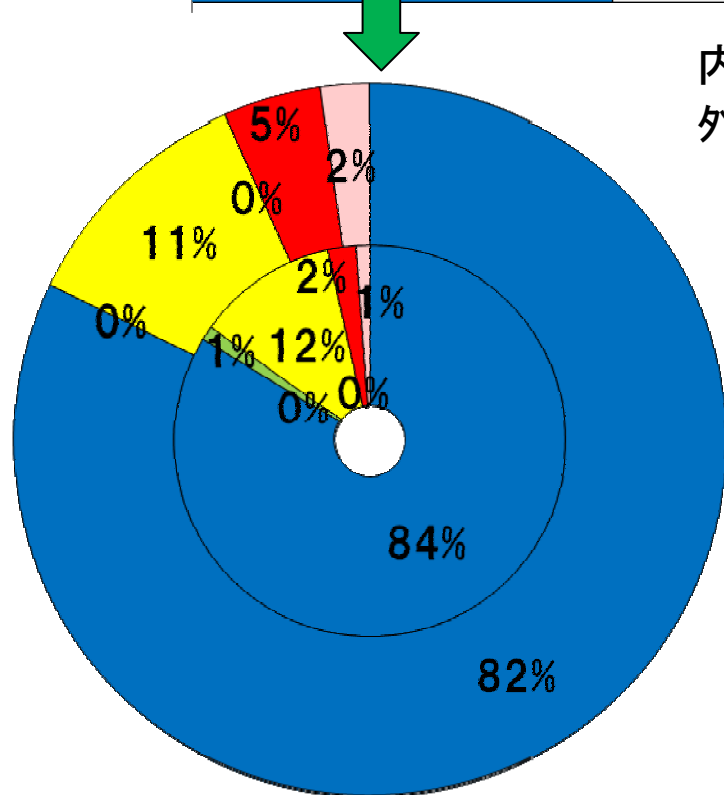
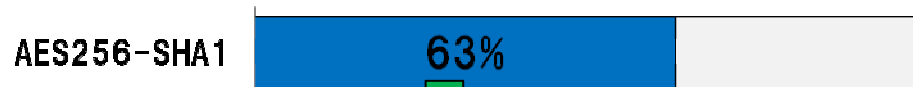
- AES256-SHA1
- AES128-SHA1
- DES3-SHA1
- RC4-SHA1
- RC4-MD5
- 不明
- 接続不可



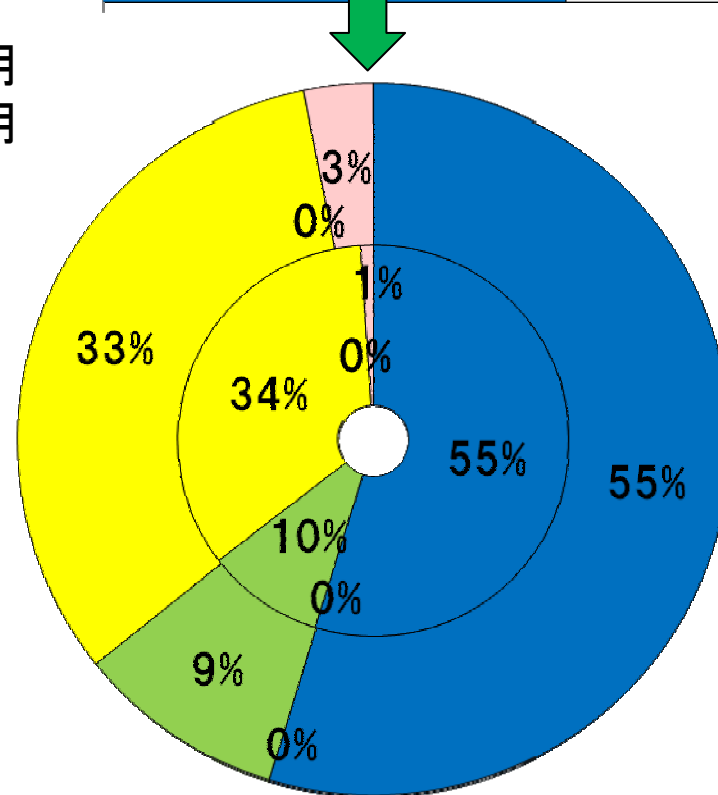
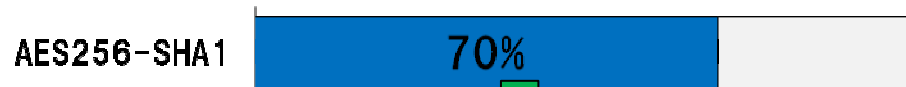
AESは使われるけども、AES128のほうが優先

AESが利用される設定になっているか

政府・公共系サーバ



金融系サーバ



内側:2008年11月
外側:2009年6月

- AES256-SHA1
- AES128-SHA1
- DES3-SHA1
- RC4-SHA1
- RC4-MD5
- 不明
- 接続不可

設定変更してもAESの利用率はほとんど変わっていない

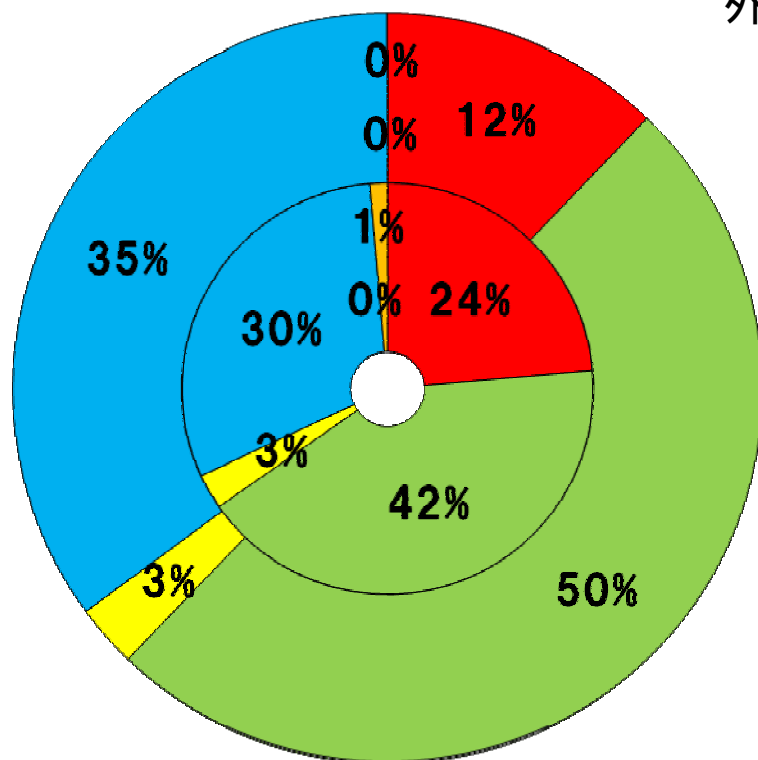
SSLサーバ証明書と暗号のバランス

AES256-SHAで接続しているサーバに限定

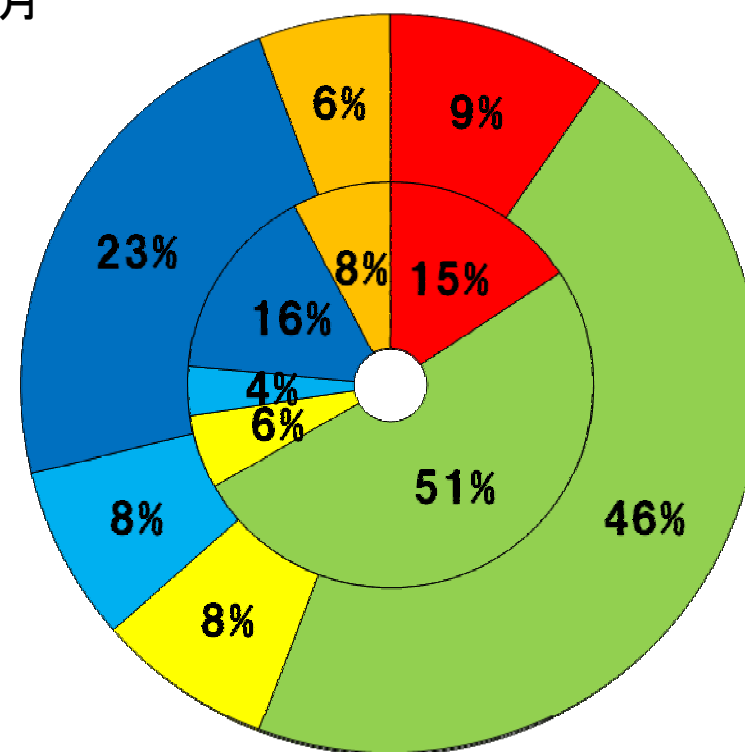
政府・公共系サーバ

内側:2008年11月
外側:2009年 6月

金融系サーバ



- MD5 with RSA1024
- SHA1 with RSA1024
- SHA1 with RSA1024 EV
- SHA1 with RSA2048
- SHA1 with RSA2048 EV
- SHA1 with RSA1000



AESを使っているサーバだから証明書も、とはなっていない

SSLの調査結果から

**整合的に暗号設定が行われている形跡が見いだせない
～ 暗号アルゴリズム設定がベンダ任せになっていませんか ～**

- 「暗号化はAES256ビット」なのに「鍵交換は512ビットRSA」
- RC4で接続といってもSHA1を使っているとは限らない
- AESを使えるようにしたのにMD5のサーバ証明書のまま
- 同じ企業内のサーバであっても設定内容に一貫性がない
- どの暗号アルゴリズムが選択されたかブラウザ(クライアント)からは確認できない

せっかく設定を変えたのに・・・設定失敗

- AESを使えるようにしたらSSL2.0やEXPも利用可能になった
- 「AES256-SHA1」が使えるはずなのに「RC4-MD5」を選択

SSLの調査結果から

SSL証明書の中身を確認しているか？

- 更改できるタイミングが何回もあったはずなのにMD5のSSL証明書が未だに健在
- MD5や署名長は変わっても、鍵交換用RSAの鍵長は変わらない

SSL証明書の期限切れを起こすことが意外と多い

全日空のCIO、搭乗システム障害について会見、「担当者の会話が不十分だったためのごく初歩的なミス」と反省の弁

全日空幹部は2008年9月18日会見を開き、14日に発生したシステム不具合の原因を公表し反省を語った。払い戻しなど直接的な損失額は、全日空グループ全体で2億円。

原因は、既報されているように、チェックイン端末を管理するサーバー内の暗号化機能の有効期限の設定ミスによるもの。今回のトラブルについて、同社のCIO(最高情報責任者)である上席執行役員佐藤透IT推進室長は、2点を挙げた。



安全な接続ができませんでした

は不正なセキュリティ証明書を使用しています。

この証明書の有効期限は 2009/03/24 8:59 に切れています。

(エラーコード: sec_error_expired_certificate)

- サーバの設定に問題があるか、誰かが正規のサーバになりすまして接続している可能性があります。
- 以前は正常に接続できていた場合、この問題は恐らく一時的なものです。後で再度試してみてください。

[例外として扱うこともできます。](#)

再調査中に3件の
期限切れを発見

出典: 日経情報戦略
<http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/NEWS/20080918/315052/>

まとめ

**SSLサーバの暗号設定マニュアルのようなものを整備
～ 暗号の説明というより作業マニュアルとして反映 ～**

- 利用するciphersuiteを設定するための作業マニュアル
- SSLサーバ証明書を発行・更新手続きするための作業マニュアル
- 作業マニュアルを利用させるためのルール化

例えば NIST SP800-52

NIST Special Publication 800-52

Guidelines for the Selection and Use of Transport Layer Security (TLS) Implementations

NIST

National Institute of Standards and Technology
Technology Administration
U.S. Department of Commerce

C. Michael Chernick, Charles Edington III,
Matthew J. Fanto, Rob Rosenthal

COMPUTER SECURITY

5.1 Considerations for Selecting TLS Client Implementations

Clients play a limited, but crucial role in the overall security posture. The client negotiates three parameters: the protocol version, the cipher suite, and the compression algorithm. These items are presented in the "ClientHello" message and form the basis for the server to negotiate the strongest possible security options.

The ClientHello message is the first message to be sent as the client establishes a TLS connection to the server. These messages allow the client to stay connected, re-establish an existing session, or to establish several independent secure sessions without repeating the full handshake procedure.

The client version field within the ClientHello message represents the protocol version that client supports. This field should contain the highest version number the client is prepared to support. For implementations that support TLS this value is: major=3, minor=1 (which represents 3.1, and hence TLS). All non-TLS implementations should use major=3, minor=0 for SSLv3. This designation does not limit the implementation to the identified protocol version. For example, if a client wishes to use only TLS, the client must connect to the server and is responsible for terminating the connection if the server selects any other protocol. Under no circumstances should a client use any protocol less than SSLv3²⁰. For the most secure protection of data, only use clients that support TLS and that can disable all versions of SSL.

Table 2: Recommended Client Cipher Suites²¹

Cipher Suite	Authent-ication	Key Establishment	Encryption	Digest
TLS_DHE_DSS_WITH_AES_256_CBC_SHA	DSS	DHE	AES_256_CBC	SHA-1
TLS_DHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA	RSA	DHE	AES_256_CBC	SHA-1
TLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA	RSA	RSA	AES_256_CBC	SHA-1
TLS_DH_DSS_WITH_AES_256_CBC_SHA	DSS	DH	AES_256_CBC	SHA-1
TLS_DH_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA	RSA	DH	AES_256_CBC	SHA-1
TLS_DHE_DSS_WITH_AES_128_CBC_SHA	DSS	DHE	AES_128_CBC	SHA-1
TLS_DHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA	RSA	DHE	AES_128_CBC	SHA-1
TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA	RSA	RSA	AES_128_CBC	SHA-1
TLS_DH_DSS_WITH_AES_128_CBC_SHA	DSS	DH	AES_128_CBC	SHA-1
TLS_DH_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA	RSA	DH	AES_128_CBC	SHA-1
TLS_DHE_DSS_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA	DSS	DHE	3DES_EDE_CBC	SHA-1
TLS_DHE_RSA_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA	RSA	DHE	3DES_EDE_CBC	SHA-1
TLS_RSA_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA	RSA	RSA	3DES_EDE_CBC	SHA-1
TLS_DH_DSS_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA	DSS	DH	3DES_EDE_CBC	SHA-1
TLS_DH_RSA_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA	RSA	DH	3DES_EDE_CBC	SHA-1
TLS_RSA_WITH_RC4_128_SHA ²²	RSA	RSA	RC4_128	SHA-1

Table 3: Recommended Server Cipher Suites²⁴

Cipher Suite	Auth	Key Establishment	Encryption	Digest
TLS_DHE_DSS_WITH_AES_256_CBC_SHA	DSS	DHE	AES_256_CBC	SHA-1
TLS_DHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA	RSA	DHE	AES_256_CBC	SHA-1
TLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA	RSA	RSA	AES_256_CBC	SHA-1
TLS_DH_DSS_WITH_AES_256_CBC_SHA	DSS	DH	AES_256_CBC	SHA-1
TLS_DH_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA	RSA	DH	AES_256_CBC	SHA-1
TLS_DHE_DSS_WITH_AES_128_CBC_SHA	DSS	DHE	AES_128_CBC	SHA-1
TLS_DHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA	RSA	DHE	AES_128_CBC	SHA-1
TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA	RSA	RSA	AES_128_CBC	SHA-1
TLS_DH_DSS_WITH_AES_128_CBC_SHA	DSS	DH	AES_128_CBC	SHA-1
TLS_DH_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA	RSA	DH	AES_128_CBC	SHA-1
TLS_DHE_DSS_WITH_AES_256_CBC_SHA	DSS	DHE	AES_256_CBC	SHA-1
TLS_DHE_DSS_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA	DSS	DHE	3DES_EDE_CBC	SHA-1
TLS_DHE_RSA_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA	RSA	DHE	3DES_EDE_CBC	SHA-1
TLS_RSA_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA	RSA	RSA	3DES_EDE_CBC	SHA-1
TLS_DH_DSS_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA	DSS	DH	3DES_EDE_CBC	SHA-1
TLS_DH_RSA_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA	RSA	DH	3DES_EDE_CBC	SHA-1

Note that all server certificates with RSA keys should have a key length of at least 1024 bits.

例えば NIST SP800-44

NIST Special Publication 800-44
Version 2

Guidelines on Securing Public Web
Servers

*Recommendations of the National
Institute of Standards and Technology*

Miles Tracy, Wayne Jansen, Karen
Scarfone, and Theodore Winograd

COMPUTER SECURITY

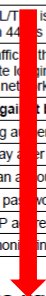
7. Using Authentication and Encryption Technologies.....

- 7.1 Determining Authentication and Encryption Requirements
- 7.2 Address-Based Authentication.....
- 7.3 Basic Authentication
- 7.4 Digest Authentication
- 7.5 SSL/TLS.....
 - 7.5.1 SSL/TLS Capabilities.....
 - 7.5.2 Weaknesses of SSL/TLS.....
 - 7.5.3 Example SSL/TLS Session
 - 7.5.4 SSL/TLS Encryption Schemes
 - 7.5.5 Implementing SSL/TLS.....
 - 7.5.6 SSL/TLS Implementations.....
- 7.6 Brute Force Attacks
- 7.7 Checklist for Using Authentication and Encryption Technologies for Web Servers.....

7.7 Checklist for Using Authentication and Encryption Technologies for Web Servers

Completed	Action
	Configure Web authentication and encryption technologies
<input type="checkbox"/>	For Web resources that require minimal protection and for which there is a small, clearly defined audience, configure address-based authentication
<input type="checkbox"/>	For Web resources that require additional protection but for which there is a small, clearly defined audience, configure address-based authentication as a second line of defense
<input type="checkbox"/>	For Web resources that require minimal protection but for which there is no clearly defined audience, configure basic or digest authentication (better)
<input type="checkbox"/>	For Web resources that require protection from malicious bots, configure basic or digest authentication (better) or implement mitigation techniques discussed in Section 5.2.4
<input type="checkbox"/>	For organizations required to comply with FIPS 140-2, ensure the SSL/TLS implementation is FIPS-validated
<input type="checkbox"/>	For Web resources that require maximum protection, configure SSL/TLS
	Configure SSL/TLS
<input type="checkbox"/>	Ensure the SSL/TLS implementation is fully patched
<input type="checkbox"/>	Use a third-party issued certificate for server authentication (unless all systems using the server are organization-managed, in which case a self-signed certificate could potentially be used instead)
<input type="checkbox"/>	For configurations that require a medium level of client authentication, configure server to require username and password via SSL/TLS
<input type="checkbox"/>	For configurations that require a high level of client authentication, configure server to require client certificates via SSL/TLS
<input type="checkbox"/>	Ensure weak cipher suites are disabled (see Table 7.1 for the recommended usage of Federal cipher suites)
<input type="checkbox"/>	Configure file integrity checker to monitor Web server certificate
<input type="checkbox"/>	If only SSL/TLS is to be used in the Web server, ensure access via any TCP port other than 443 is disabled
<input type="checkbox"/>	If most traffic to the Web server will be via encrypted SSL/TLS, ensure that appropriate logging and detection mechanisms are employed in the Web server (because network monitoring is ineffective against encrypted SSL/TLS sessions)
	Protect against brute force attacks
<input type="checkbox"/>	Use strong authentication if possible
<input type="checkbox"/>	Use a delay after failed login attempts
<input type="checkbox"/>	Lock out an account after a set number of failed login attempts
<input type="checkbox"/>	Enforce a password policy
<input type="checkbox"/>	Blacklist IP addresses or domains known to attempt brute force attacks
<input type="checkbox"/>	Use log monitoring software to detect brute force attacks

7.5



<input type="checkbox"/>	Ensure weak cipher suites are disabled (see Table 7.1 for the recommended usage of Federal cipher suites)
--------------------------	---

7-12

7-12

7-14

CRYPTREC推奨

SSL/TLSに対する(たぶん国内唯一の)公式ガイドライン

2003年2月決定の電子政府推奨暗号リストに基づく推奨

公開鍵暗号(署名)	RSA 1024 bit以上 DSA 1024 bit以上 ECDSA 160 bit 以上	SHA-1
公開鍵暗号(鍵共有)	RSA 1024 bit以上 DH 1024 bit以上 ECDH 160 bit以上	SHA-1
共通鍵暗号	AES 128 bit以上 Camellia 128 bit以上 3-key Triple DES 128-bit RC4	

➡ MD5はこの時点ですでに推奨ではなかった

2008年3月発行の電子政府推奨暗号の利用方法に関するガイドブックに記載の推奨

公開鍵暗号(署名)	RSA 2048 bit以上 DSA 2048 bit以上 ECDSA 224 bit 以上	SHA-1*
公開鍵暗号(鍵共有)	RSA 2048 bit以上 DH 2048 bit以上 ECDH 192 bit以上	SHA-1*
共通鍵暗号	AES 128 bit以上 Camellia 128 bit以上	

* 利用は推奨されないが、変更できるようになった場合には暗号切替等を検討することを推奨

➡ RC4とTriple DESも推奨から外されている

カナダ政府の推奨


 Communications Security Establishment Canada / Centre de la sécurité des télécommunications Canada



IT Security Bulletin Bulletin de sécurité TI

November 2008

ITSB-60

novembre 2008

Guidance on the Use of the Transport Layer Security Protocol within the Government of Canada

Purpose

The purpose of this Bulletin is to provide Government of Canada (GC) departments guidance on:

- using the Transport Layer Security (TLS) protocol for the protection of Protected A and B information;
- the approved cryptographic protocols and algorithms that the Communications Security Establishment Canada (CSEC) recommends for use with TLS; and
- standards and NIST special publications that describe the recommended cryptographic primitives and provide additional information on TLS.

Conseils : TLS (Trans du gouver

Objet

Le présent bu
gouveremen

- l'utilisati
transport (p
pour la pr
A et PRO
- les protoc
approuvés
télécommun
d'utiliser
- les norme
décrivent
recommar
additionn

Table 1 : Approved Cryptographic Primitives for TLS/
Tableau 1 : Primitives cryptographiques approuvées pour le protocole TLS

Key Establishment/ Établissement de clés	Block Ciphers/ Chiffrement par bloc	Hash Functions/ Fonctions de hachage	Digital Signatures/ Signatures numériques	Random Bit Generation/ Génération de bits aléatoires	Integrity Protection/ Protection de l'intégrité
RSA	AES	SHA-1	DSA	Hash_DRBG	HMAC
Diffie-Hellman	Triple DES	SHA-224	RSA	HMAC_DRBG	CMAC
Key Exchange Algorithm (KEA)	CAST5	SHA-256	Elliptic Curve DSA	CTR_DRBG	
Elliptic Curve Diffie-Hellman	SKIPJACK	SHA-384		Dual_EC_DRBG	
Elliptic Curve MQV		SHA-512		Legacy DRBGs based on DES, Triple DES, AES, SHA-1, and HMAC / Anciens générateurs de bits aléatoires déterministes fondés sur DES, Triple DES, AES, SHA-1, et HMAC.	